

実習日：平成 28 年第Ⅱ期 11 月 2 日

実習先：大分三愛メディカルセンター

大学名：九州保健福祉大学 5 年

氏 名：辻原 直子

今回、ゆふみ病院で独立型ホスピスがどのような緩和ケアを行っているのかを学ばせて頂きました。実習ではカンファレンスへの参加、調剤、服薬指導の見学、患者さんのお誕生日のお祝いなど施設や薬剤師の業務を見学させて頂きました。

実習前は、ホスピスと聞くとがんの治癒が望めない方が最期を迎える場所というイメージがありました。しかし調子が良ければ自宅に帰ることができ、外来での診療になることもあると聞き驚きました。外来診察中もソーシャルワーカーの方が定期的に訪問して状態を見て、悪くなればすぐ再入院できるようサポートしていることがわかりました。ホスピスは、結果的に亡くなっていく方が多いため「死」のイメージをしてしまいます。しかしホスピスの目的は、がん患者さんやご家族へのがんによって生じる痛みや倦怠感などの障害を無くして、思い通りの人生を送る手助けをすることであると知りました。実習を通して、「生きる」ための場所というホスピスでのケアを学ぶことができました。

ホスピスケアの考え方は他の病院にも通じる所があると思いました。医療機関は病気を治す所ではなく、疾病や症状で苦しむ患者さんを治療によって苦痛を取り除く所だと考えます。病気を治しても苦痛が残るのでは意味がないと思います。将来は「病気」ではなく「人」を見て医療を施す薬剤師になりたいと思いました。

今回の実習では、ホスピスや緩和ケアでどのようなことが行われているのかという知識と、医療での考え方を勉強することができました。お忙しい中、見学させて頂きありがとうございました。